

令和4年度第1回川崎市社会教育委員会議 青少年教育施設専門部会

摘録

1 日 時

令和4年11月30日(水) 14時30分～16時17分

2 場 所

黒川青少年野外活動センター

3 出席者

(1) 委 員 9名

谷島委員、中井川委員、松田委員、境委員、小林委員、黒川委員、太田委員、原田委員、番匠委員

(2) 傍聴者 なし

(3) 事務局

青少年支援室 青少年育成担当 岡本担当課長、上原担当係長、内藤職員
生涯学習推進課 山口担当係長

(4) 施 設

川崎市青少年の家 佐藤所長、齋藤副所長
川崎市子ども夢パーク 友兼所長
川崎市八ヶ岳少年自然の家 窪田所長、三井課長
川崎市黒川青少年野外活動センター 野口所長、坂口主任

4 配布資料

- 資料1 青少年教育施設専門部会委員名簿
- 資料2 川崎市社会教育委員会議規則
- 資料3 青少年教育施設の概要について
- 資料4 川崎市青少年の家 令和4年度の事業の進捗状況
- 資料5 令和4年度川崎市子ども夢パーク事業報告
- 資料6 令和4年度 八ヶ岳少年自然の家 事業進捗状況について
- 資料7 令和4年(2022)度 事業進捗状況(黒川青少年野外活動センター)

5 議 事

- (1) 川崎市黒川青少年野外活動センター 施設見学
- (2) 部会長及び副部会長の互選について
- (3) 令和4年度事業計画の進捗状況について

(4) その他(質疑応答等)

6 議事内容

議題(1) 川崎市黒川青少年野外活動センター 施設見学(14:41~15:03)

- 委員自己紹介
- 事務局・指定管理者自己紹介
- 施設見学

議題(2) 部会長及び副部会長の互選について(15:05~)

- 会議成立についての説明

- 会議公開についての説明

- 岡本青少年育成担当課長挨拶

- 配布資料の確認

- 部会長、副部会長の互選

(事務局)

部会長及び副部会長につきましては、川崎市社会教育委員会議規則第6条第4項の規定により、委員の互選で選出することが決まっております。まず立候補を募りたいと思いますが、どなたか部会長・副部会長に立候補される方はいらっしゃいますでしょうか。

立候補がないようでしたら、事務局から、部会長につきましては谷島委員に、副部会長につきましては番匠委員を御提案させていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

(異議なし)

(事務局)

では、部会長につきましては谷島委員に、副部会長につきましては番匠委員にお願いいたします。席は変わらず、このまま進めていきたいと思っております。それでは部会長の谷島委員、副部会長の番匠委員から、一言御挨拶をお願いしてもよろしいでしょうか。

(谷島部会長)

谷島と申します。

先ほど野外室内全部見て回ったんですけどもね、これが素晴らしい。子どもだったら、みんなこういうところが欲しいんじゃないかと思うくらい、素晴らしい所でした。子どもの夢とか希望というものをどんな風に育てていくか、このように皆さんで携わっていること、これは本当に素晴らしいことだと思います。私もこういう仲間に入れてもらったことを光栄に思います。

今後もひとつ、みなさんのご協力を頂きまして、前へ進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

(番匠副部長)

番匠です。

今部会長からお話があったように、黒川もそうですが、それ以外の3施設もどれも子どもの為に考えられた素晴らしい施設だと思っています。そこで働いているスタッフの皆さんも、本当に川崎市の子どものためにどうすればいいかと日々考えて努力をしていただいている。川崎というのはいくつか施設があるという事だけでも素晴らしいなと思っています。

ですが、では僕の周りの子どもたちがこういう場所を使っているかと聞いたところ、まだまだ認知度が低い。距離が遠いというようなものがあるかもしれませんが、非常にもったいないと思っております。

この会で、2年で4回話をするとするのは、それほど大きな影響力はないかもしれないが、微力ながら、この素晴らしい資産を、社会資源を、多くの子どもたちに活用してもらい、如何に育成に役立てられるかをこの場で話して、皆様のお知恵を集めて、子どもたちのために、もっともっと尽力していきたいなと思っております。

微力ながら精いっぱい頑張りたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

●議事進行を事務局から部会長に移行

議事(3) 令和4年度事業計画の進捗状況について

(谷島部会長)

それでは、それぞれの施設から報告していただきたいと思っております。まず青少年の家から御報告をお願いします。1施設5分以内を目途をお願いします。

(青少年の家 佐藤所長)

資料4及び2022年度所報を説明。

(谷島部会長)

何かご質問がありましたらどうぞ。

(番匠副部長)

先ほど光回線の工事をされたと伺いました。各施設のインターネット環境等に関しては、このコロナ禍でいろいろなオンライン会議であるとか様々な工夫をされているので、増強をするべきであるという話が以前から出ているかと思っております。今回、導入された光回線というのはどのような速度であるか、どのような業者であるか、もしわかるようでしたら、教えていただければと思います。

(青少年の家 齋藤副所長)

速度までは把握していませんけれども、NTTの光回線の方で、配管工事してもらいました。以前は

Wi-Fi を使ったり、ADSL を使ったりでだいぶ遅かったですが、光回線が稼働し始めて今は快適になりました。

(番匠副部長)

施設全体で、快適に高速インターネットが使える状況になったと言う事ですか。

(青少年の家 齋藤副所長)

はい。

(番匠副部長)

わかりました、ありがとうございました。

(谷島部長)

他にありますでしょうか。無いようでしたら、次にうつります。次に子ども夢パーク、お願いします。

(子ども夢パーク 友兼所長)

資料5及び夢パ通信(12月、1月)を説明。

(谷島部長)

ありがとうございました。今のご説明含め、何か質疑あったらどうぞ。

(松田委員)

「ゆめパのじかん」を見させていただき、今お話があった内容は、その画面が頭に浮かぶくらい良くわかりました。すごくいい映画だったので、ぜひみなさんも見てください。

(谷島部長)

よろしいですか？

(太田委員)

私も見させていただきました。映画やNHKの話がきっかけで知名度が広がっていくに従って、視察の受け入れが増えているのではないか。その御負担はどうですか。

(子ども夢パーク 友兼所長)

地方の自治体であったり、議員であったり、首長さんであったり、今非常に増えています。今日来られていない子どもの権利担当課長ともお話しているのですが、断るのが申し訳ないくらい、1日に何件という形で来られている。こちらが対応できないと断っても、権利担当に話が行って、子どもの権利のお話を聞いたら、やっぱり現場に行きたいです、みたいな形で見学に来ます。見学に来られたら、放っておけないので、それなりの人手をかけて、15分~30分、どこか無理くりでも時間を作って対応するという状

況が続いています。また、資料等を用意しお渡ししておりますので、そこでも経費がかさんでいるのではないかと感じています。

(太田委員)

視察の受け入れっていうのは、私のところの団体でもありますが、時間と手間、人もお金もかかります。指定管理料に受け入れ対応の費用が含まれていないのに、一方で行政からの依頼となると断るわけにいかないというのも有るかと思います。

場合に寄りけりでしょうけど、受け入れにあたっては課金をする、っていうことも有り得る話だと思います。相手次第でしょうが、市として検討していく必要はあるのではないかと思います。

(境委員)

ひとつ伺ってよろしいでしょうか。施設見学を受け入れて、受け入れた方々が、その行政、或いは地域において、子ども夢パークに準じた、或いは参考にしたような施設が出来たというお話は聞こえてきておられますか。

(子ども夢パーク 友兼所長)

夢パークができて19年目で、これまでずっと視察は続いてきているわけですがけれども、聞こえてきています。

千葉であったり、浦安であったり、またこの前は、帯広少年院の閉庁にあたって国から場所を買い取り、子どもの施設を作りたい、ということで、帯広市長が直接来られるなど、首長が本気でやるぞ、ということで視察に来られるケースもあり、また最近増えてきたかなと思います。また、夢パークのプレーパークではなく、フリースペースえんの部分でいうと、世田谷区がほっとスクールをつくるにあたって、保坂区長を先頭に、教育委員会の方々が視察に来られて参考にされたという事例があるなど、たくさんあると思っています。

(境委員)

それだけ、実になるのであれば、やりがいがありますね。

(子ども夢パーク 友兼所長)

ただ、視察される団体の中には、全然興味の無い方もいらっしゃると思うので、そういう時はちょっと疲れます。

(境委員)

そういうのは色分けしてというか、レベル分けして受け入れる、受け入れないがある程度ハンドリングできるといいですね。

(子ども夢パーク 友兼所長)

今は非常に問い合わせが多いので、新たに、月に1回の合同見学会を設定して、できればこの日に合

わせてくださいとお願いしています。見学会の参加者数は、多い月、少ない月、様々です。そんな工夫をしながら今どうにかこなしているという状況です。

(谷島部会長)

ありがとうございます。他にいかがですか。もし無いようでしたら、時間の関係もありますので、次につります。それでは八ヶ岳少年自然の家からご説明をお願いします。

(八ヶ岳少年自然の家 窪田所長、三井課長)

資料6を基に説明。

(谷島部会長)

よろしいですか。ありがとうございます。今の説明に対して何かご疑問ありましたら、どうぞ。

(番匠副部会長)

今SNSで情報発信をしているというお話がありましたけれども、SNSには、ツイッターとかInstagramとか色々あると思いますが、どのような媒体を使っているのかということと、どれくらいのユーザー数が居るのか、分かれば教えてください。

(八ヶ岳少年自然の家 三井課長)

今はブログ、Instagram、Facebookの配信を行っています。ユーザー数は把握できておらず申し訳ないです。(後日事務局調べ：Instagramフォロワー313件、Facebookフォロワー106人)

(番匠副部会長)

八ヶ岳って、紅葉などのSNS映えするコンテンツが色々あるかと思しますので、それを有効に発信のネタとして使っていただくよう、お願いしたいと思っています。

(谷島部会長)

よろしいですか？何か他にご質問ありましたらどうぞ。ないようでしたら、先ほど見学しましたけども、黒川青少年野外活動センターからご説明、お願いします。

(黒川青少年野外活動センター 野口所長)

資料7を基に説明。

(谷島部会長)

盛りだくさんの興味深い報告ありがとうございました。今の報告内容について何かご質問ありますか。

(境委員)

プログラムマルシェ、ですか。私は存じ上げなかったです。今少し御説明を受けた限り、面白そうだと

思ったので。何かチラシかホームページなどがあれば、教えていただけませんか。

(黒川青少年野外活動センター 坂口主任)

ホームページと、一応チラシも今回久々に刷って色々と配布しました。近隣の学校や指導者の方に我々の活動を知っていただいて、子どもたちに還元したいというのが最初の思いでした。先生方に学んでいただいて、いい取組だなと思っていただいて、黒川を今後利用してもらえればと思っています。チラシとホームページという形で案内しておりますので、ご覧いただければと思います。

(境委員)

では、ホームページを見れば良いですね。ちなみに第1回はいつですか。

(黒川青少年野外活動センター 坂口主任)

12月18日(日)です。ホームページから申し込みできます。

(境委員)

チラシは、近隣の小学校に配布とのことですが、内容からすると、青少年団体の指導者も興味持ちそうです。多分ガールスカウトさんでも興味持たれているのでは。

(松田委員)

そうですね、いいなと思って聞いていましたが、12月18日は中高生リーダーの会が。

(黒川青少年野外活動センター 野口所長)

日程がまずかったですね。

(4) その他(質疑応答等)

(番匠副部長)

全体の事をお話したいのですけれども。各施設からの報告書で、利用者数は前年度と比べてこう、と書かれています。以前はそれでよかったのですが、コロナの流行で、前年度に比べて3倍になりましたといった報告をされても、コロナの影響もあるので、今はあまり意味がないのではないかなと思っています。コロナ前のデータも載せてくださいということを再三お願いしてきたが、それがなされておらず、毎回、それをやっていただくのは青少年の家だけ、という状況です。今回も青少年の家はコロナ前の平成30年度の実績も載ってきたので、コロナ前と比較してどうなのかが非常に分かりやすいです。できれば他の3施設もコロナ前のデータを比較対象として載せていただきたい。これは以前から再三言っていることとなります。

コロナから3年経って、私は恐らく2つの視点で評価しなければいけないと思っています。ひとつは、どれだけコロナ前に戻せたか、という尺度です。もうひとつは、with コロナということで、コロナ前に

はやっていなかった新しい活動を始める、という新しい切り口です。その2つを分けて報告してもらい、評価するということが、これから求められると思っています。

また、今期は比較的多くが新しい顔ぶれとなっており、恐らく以前のことが何もわからず、今回の報告のみでは評価できない、ということがあると思います。そのために、前年度の問題点を提示し、その問題点を解決するための改善案を提示し、更にその改善案に対して、今どれくらい進んでいるかと言う事を報告していただく、ということが必要と思います。

例えば、この報告書で、今までの利用者が42,000人でしたと報告を受けた場合。数字見ると大きいですが、それが本当に過去と比べて大きいのか小さいのかは分かりにくい。分かりやすくするために、前年度こういう問題が発生していました、それを解決するためにこういう改善をしたいです、といったことを前年度のまとめとして作ってもらおう。この報告書の頭には、前年度のまとめを冒頭に書き、それに向けてこういう活動をしていったら、その到達目標に対して半年でここまで行きました、っていうようなことを書いていただかないと、前のこと何も知らない人は評価が出来ない。

もう一度言うと、前年度の問題点を提示する。それに対して、その問題点を解決するための改善案を提示する。改善案に対して、今どれくらい進んでいるかと言う事を報告していただくと。例としては、インターネット遅いという利用者の声がありました、それが問題です。それを解決するためには、早いインターネットを入れるべきです。で、出来ました、という形です。

その報告を受けて、委員は、それはすごく良かったですね、という評価になるのだと思います。

あと、先ほど冒頭でも言いましたが、この部会で、この素晴らしい施設の内容をもっと多くの人たちに知ってもらおう、利用者増やすことが重要だと思っていて、何か出来ることはないかと思っています。

先ほど見学がすごく多くて、負担になるみたいな話がありました。確かに負担と言えば負担ですけど、広報という意味で言うと、川崎の宝である子ども夢パークを色んな所に知ってもらおう、すごいチャンスだと捉えています。見学対応は負担が増えるからやりたくない、ではなく、むしろもっとどんどんやるべきであり、何なら川崎市の広報担当の方が張り付いて、業務を代わっていただいてもいいくらい、意味のあることだと思います。それを川崎市の代わりに、NHKや映画監督がまとめてやってくれているのはありがたいことですが、ただ外部の人に任せているのではなく、川崎市も率先してそれに協力すべきではないか、と思います。

利用者を増やすためには、例えば、この部会で、来年度に向けてチラシを作って、この4つの施設の素晴らしさを伝える。或いは、この時期に利用者が少なくなるといった課題があるのなら、その時期に特別なイベントをこの部会で何か企画して、各4チームで、イベント内容をまとめたような両面チラシなんかを作り、小学校・中学校への全校配布に協力していただいて、わかりやすく小学生・中学生に伝えて、利用率や認知度を上げる。又は、「ゆめパのじかん」、今は上映が終わっているとか、自主上映しか出来ないとかという話でしたが、この4つの施設のどこか一番入れそうな青少年の家とかで、自主上映会をやって、それをチラシのメインに持ってくる。

何か、この部会で、チラシだかホームページだか、広告媒体を作成し、何らかの企画を作り、小学校中学校の協力を得て、何らかの分かりやすい成果をやってみたらどうか、と思うわけです。今年度やりましょう、っていうと大変なので、来年度位に向けて、2年間かけて準備していく。残り3回の部会で、目に

見える具体的な広報というか、認知度アップの取組をやってはどうか、と思ったりしています。

僕一人のアイデアなので、皆さんがどう思うか分かりませんが、そういうことを積み重ねていけば、もっともっこの環境が良くなるのではないかな、と思います。

(谷島部会長)

ありがとうございました。他に全体を通して何かご質問ありましたらどうぞ。

(原田委員)

スポーツ施設の場合、コロナ前とコロナ後では、利用が全く同じ場合もあれば、一方で利用者状況や利用者層に違いが出る場合もあります。各施設で、徐々に利用者数が戻ってきている中で、その利用者の層、客層という言い方が正しいかは分からないけれども、同じなのか、それとも以前と違うといった動きがあるのか、についてお聞かせください。また、もし動きがある場合は、そのことに対し何か感じていることがあればお聞かせいただけないかな、と思います。

つまり、コロナ前に完璧に戻るというよりは、コロナを経て、これまでと違う形で事業を展開していかなければいけない、というところがあるのではないかな。つい利用者数だけで評価しがちになりますけれども、団体・個人の利用という部分で、もしコロナ前とコロナ後とで異なる傾向が出てきているのであれば、ぜひ知っておきたいと思いますが、いかがでしょうか。

(黒川青少年野外活動センター 野口所長)

黒川青少年野外活動センターの場合は、夏休みに野球チーム・サッカーチーム等が宿泊で利用していましたが、コロナになってほぼ無くなりました。あと、桜の咲く時期に、色んな老人ホームが1週間の間に来て、また今年も見られて良かったねと言ってくださっていましたが、それも全くななくなっちゃいました。

自主保育の団体、ガールスカウト、ボーイスカウト、子ども会の利用は今まで通りですけれども、今言った大きな2つは、減ってしまいました。それはまだ戻ってきていないですね。

野球チームなんかは夜、お母さんたちが炊き出しをしたりする。それがネックだったりするのか、センターには食堂がないので、自分たちで作って何かあったらどうしよう、泊って何かあったらどうしようって気持ちがまだあるのかなと思います。

(谷島部会長)

色々ご苦勞の有る施設の様ですけど。他にありますか。

(子ども夢パーク 友兼所長)

直接コロナ、ということではないのかもしれませんが、映画やNHKをきっかけに、新規に利用が増えるということはあると思います。ただ、そういった方は利用慣れしていないというか、映画やドキュメントで良い部分を見て来ているので、子どもを連れてきて、子どもに、はい、なんでも好きに自由にやりなさい、といった感じで言われていることがあります。一方で、スタッフは自分の責任で自由に遊ぶということを第一にやってきているので、少しもやもやします。このプレーパークではやりたい放題で良い

よね、と思われている親御さんが増えてきている感じがするので、僕らスタッフは、利用者に対して、どういう場所だよということであったり、プレーパークであったり、子どもが遊ぶということであったり、をどういう風に理解しようかっていうことを、新規の利用者に対し伝えていく必要が出てきているのかなと、また着手しないとイケないのかな、という風に思っているところです。

(八ヶ岳少年自然の家 窪田所長)

昨年度は夏休みなど青少年団体の予約が無い時期は、一般の人がおいしいところに入り込めたとあっていうことで、一般の人の利用は増えました。ただ一方で、政府の助成金等が出てきて、助成金を使える宿泊施設に利用が取られてしまっている状況もあります。その辺の兼ね合いもあるので、コロナ前とコロナ後とで明確に分析できるかということ、微妙な、難しい分析になっちゃうのかな、という実態があります。

(青少年の家 佐藤所長)

子ども会とかいう、団体で募集してくるところは減りましたが、家族ぐるみで、2家族8人で泊まるという団体が増えました。利用にあたっては、最初に色んな話をしまして、活動に対して最低限度のルールはあります、という話をしながら進めています。家族ぐるみですと、子ども会とはまた違ったルールが生まれますので、そういうところもお話ししながら進めています。

あと、先ほど番匠副部長からもお話がありました、うちの施設、小学生向けとか中学生向けの広報に関しては、学校さんをお願いしまして、チラシを全校に配布していただいております。そのおかげで、「チャレンジ体験」とか、小学校のお子さんの参加が増えております。広報として、うちの施設自体は本当に平日とか、そういう時に如何に使ってもらおうか、ということがすごく大きいものですから、学校にお願いしてチラシを配布して頂いて、というのが現状です。

(谷島部会長)

ありがとうございます。なかなか活発なご意見ありがとうございます。まだご質問ありましたらどうぞ。よろしいですか。では議事をすべて終えましたので、事務局に進行を戻します。

●事務局から、令和4年度第2回目の部会を2月頃に開催する予定である旨を連絡

●事務局から、次の会場が青少年の家を予定している旨を連絡